ホッとひと息　寄り道講座

“地域医療”を守るのは？

全国で相次ぐ公立病院の閉院

平成１９年３月　公立深谷病院（宮城県石巻市）
　　夕張市立病院（北海道夕張市）
平成２０年９月　銚子市立病院（千葉県銚子市）
平成２１年３月　市立松原病院（大阪府松原市）

「医療崩壊」

地域の医療体制を支えていた（特に）公立病院から働く医師や看護師が少なくなり、診療体制が維持できなくなったことをきっかけに地域の医療体制が崩れること

「医療崩壊」を防ぐことは出来る？

答え：

防ぐことは出来ます。

兵庫県内に市民の活動で医療崩壊を防いだ地域があります。

その地域・・・丹波市の例をご紹介します。

兵庫県
HYOGO
鳥取県
京都府
岡山県
大阪府
香川県
和歌山県
新温泉町
美方郡
香美町
豊岡市
義父市
朝来市
宍粟市
丹波市
篠山市
神河町
神崎郡
多可町
多可郡
市川町
福崎町
西脇市
佐用町
佐用郡
赤穂郡
上郡町
たつの市
相生市
赤穂市
揖保郡
太子町
姫路市
加西市
加東市
三田市
猪名川町
川辺郡
小野市
川西市
加古川市
高砂市
播磨町
加古郡
稲美町
三木市
北区
宝塚市
伊丹市
西区
芦屋市
尼崎市
西宮市
中央区
灘区
東灘区
兵庫区
長田区
須磨区
垂水区
明石市
神戸市
西島
家島
たんが
男鹿島
姫路市
人口:95,692人
面積:34平方キロメートル
丹波医療圏(丹波市・篠山市)
人口:約115,000人
面積:880平方キロメートル
淡路市
淡路島
洲本市
南あわじ市
(C)Mapion

平成１９年４月の出来事

・兵庫県立柏原（かいばら）病院の小児科医師２名のうち１名が院長に就任

・残る１名の医師が「このままでは安全な医療を提供できない」として５月末での辞意を表明

地元紙（丹波新聞）で報じられたが、
市民の反応は低かった・・・

（病院で働く）
小児科医師が少なくなると・・・

・当直医師がいなくなるので、夜間の救急患者受け入れが困難になる

・分娩の安全性が保てないため、産科の診療が困難になる

つまり、医療崩壊が起こります。

でも、・・・

小児科に限ったことでしょうか？

足立智和　丹波新聞社記者の呼びかけによる座談会

子育て中の母親の意見

・そんなん、困る
・なんで、こうなったん？
・これから、どうなるん？

ある１人の母親の体験談が、
“みんなの気持ち”を変えさせます。

（体験談の内容）

ある日の夜８時、ぜんそく発作が起きた子どもを連れて柏原病院を受診したが、既に３０人の子どもが診察を待っていた。

午前２時に医師の診察を受け、午前４時に入院が決まり、病室へ移った。

病室で疲れて寝てしまい、明るくなって目を覚ますとベッドサイドに「処置しておきました」と医師の置き手紙があった。

子どもの着替えを取りに帰ろうと、外来診察室の前を通ると、普段どおり医師が診察していた。

・・・先生は寝ていないことに気がついた

（ある１人の母親の意見）

自分の子どもの病気のこと考えたら、柏原病院の小児科がなくなるんはほんまに困るんや・・・でも先生のあんな姿を見てたら『辞めんといて』とは、よう言わん・・・

・医師の当直明け３６時間連続勤務

・外来、入院、救急、緊急手術の綱渡り

・コンビニ受診（※）

（※）軽症にもかかわらず、夜間や二次救急を自己都合で受診すること。

私たち市民にできることは・・・？

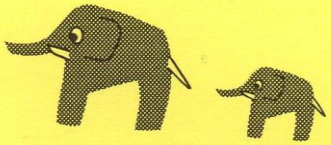
平成１９年４月～６月の出来事

「県立柏原病院の小児科を守る会」が発足

・署名活動

“コンビニ感覚での受診を控えます”ので、医師を派遣してください。

５５，３６６筆の署名があつまり、６月１４日に兵庫県庁へ提出



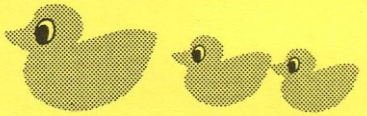
こどもを守ろう
お医者さんを守ろう

本当に必要な人が、必要な時に受診できるよう、コンビニ感覚での病院受診を控えるようにしませんか

◆柏原病院から小児科医が１人もいなくなってしまうかもしれません

署名にご協力お願いします

県立柏原病院の小児科を守る会
mamorusyounika@yahoo.co.jp



©TOCONUTS

・県（健康局長）の答え

『丹波より困っている地域がある』

『県としては、柏原病院だけを支援できない』
『神戸まで高速道路を使えば、
３０分で来れませんか？』

ショックを受けて丹波に戻ったが・・・

もう一度“みんなの気持ち”が変わります。

人（行政）任せでは、解決しない

平成１９年７月～

「守る会」３つのスローガンを掲げて活動

①　コンビニ受診を控えよう

②　かかりつけ医を持とう

③　お医者さん（医療関係者）に感謝の気持ちを伝えよう

具体的な活動は・・・

① コンビニ受診を控えよう

② かかりつけ医を持とう

守る会が作った冊子『病院に行く　その前に』

他にも、

・医療座談会「ママのおしゃべり救急箱」
・携帯メールマガジン（毎週金曜日）の配信

などで“市民の気持ち”を変えています。

「守る会」の活動がきっかけで、
地域全体での取り組みが増えてきています。

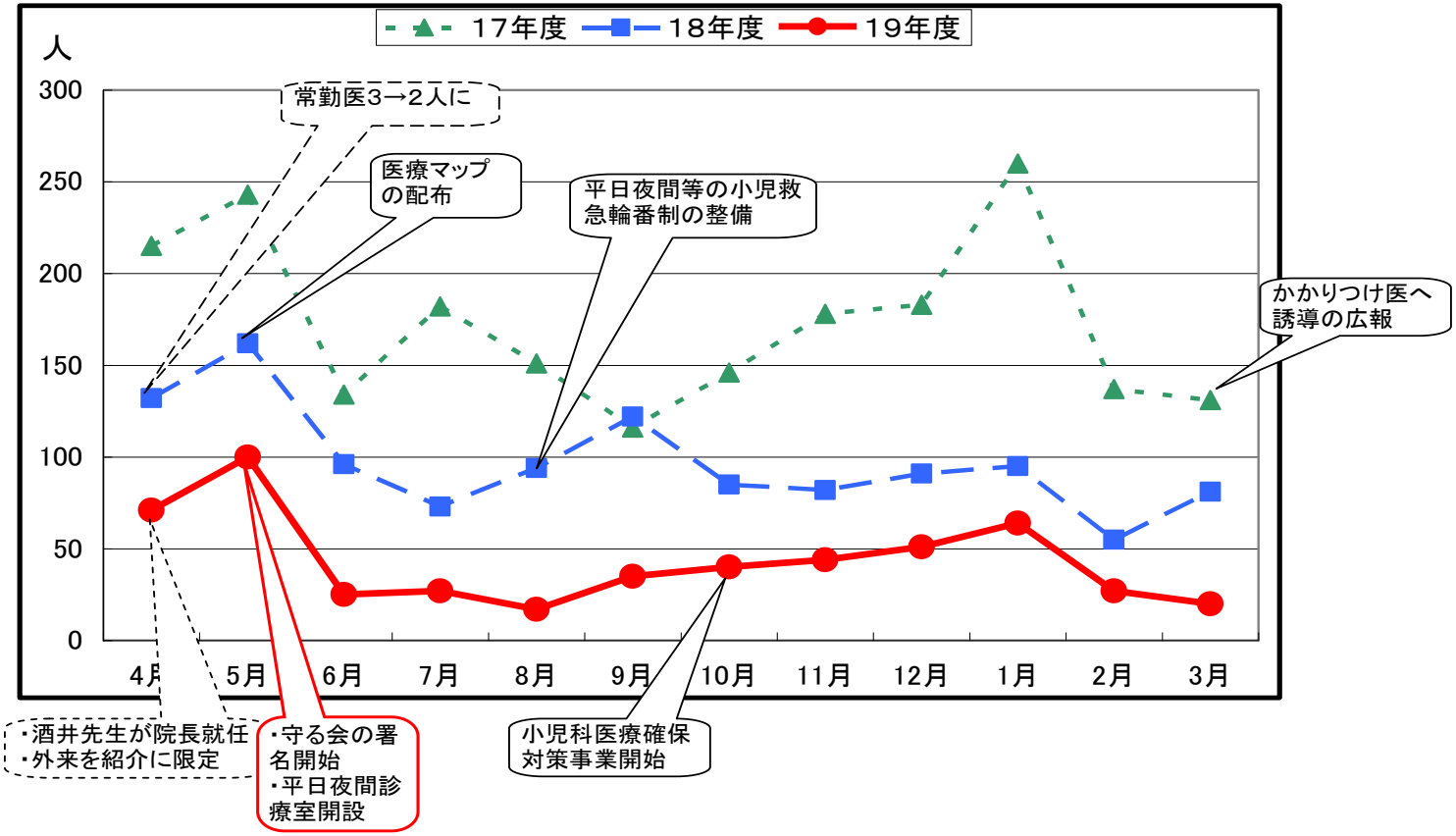
丹波市消防車（左上）
タクシー（右上）
商店街の“のぼり”　（右下）

③　お医者さん（医療関係者）に感謝の気持ちを伝えよう

ありがとう
メッセージ
ありがとう メッセージ
SIDS
"大切な赤ちゃん"を
乳幼児突然死症候群(SIDS)で
失わないために

その後の県立柏原病院は？

・コンビニ受診が減ったことにより、小児科の時間外受診者数が減少



・辞意を表明していた医師が、辞意を撤回
・新たな小児科医師が着任し、現在７名に・・・

ここで終われば、ハッピーエンドですが・・・

柏原病院には、常勤の脳神経外科医師が不在のため、交通事故に遭うと、西脇市や福知山市に搬送されています。

「守る会」３つのスローガンは・・・

①　コンビニ受診を控えよう

②　かかりつけ医を持とう

③　お医者さん（医療関係者）に感謝の気持ちを伝えよう

病院で働く医師や看護師が少ないのは

「丹波」だけでしょうか？

「小児科」だけでしょうか？

東播磨地域は、どうでしょうか？

丹波新聞記事（平成１９年３月２１日）

　先日、ある病院の時間外救急外来に患者の付き添いで行ったひとが、ひどく怒っているのを聞いた。

「あんなにひどいとは思わなかった」

「ろくな医者がいない」　　と言うので、

　ろくな医者がいないなんてことはない。今いる医師は、この地域の医療を守る使命感がある人、特別義理堅い人たちでしょう

と反論した。

今、医師の世界は、超売り手市場だ。公立、公的病院で常勤医として働くより、非常勤医でいくつかの病院を掛け持ちした方が、身入りは増える。しんどい当直からも外れられ、自分の時間も持てる。

昨年の３月から１年間、病院の医師不足問題を追ってきた。報道するたびに「私たちは、どうしたらいいの」と言われる。

２つ提案したい。

一つは、近隣市も含め、どこにどんな医者がいるかを知ること。病院の体力低下を認め、以前は丹波地域で完結できていたことが、できなくなっている事実を受け入れること。

二つ目は、がんばっている医師の気持ちを絶たないこと。診察の後は不平でなく感謝の言葉をかけよう。

ひと言「先生、ありがとう」と。

そういう地域にならないと、勤務医は定着せず、今いる医師にも愛想を尽かされる。

と言うわけで・・・

“地域医療”を守るのは？

お医者さんと私たちが安心して暮らせる地域づくりを目指して・・・

地域医療を守るのは
一人ひとりの心がけ

高砂市・高砂市民病院

お医者さんと私たちが安心して暮らせる地域づくりを目指して・・・

地域医療を守るのは
一人ひとりの心がけ

高砂市・高砂市民病院

これで
終了させていただきます。
ご清聴ありがとうございました。